

年月日 平日＝2010年04月08日（木・晴）
休日＝2010年04月25日（日・晴）

回数 2008期・第22回平日巡礼
2009期・第11回平日巡礼＝15名
2009期・第11回休日巡礼＝24名

●四十二番札所 長楽寺（ちょうらくじ）

- * 本尊・薬師如来
- * 山号・大浦山
- * 宗派・真言宗
- * 草創・不明

* 創立年代は不明で、言い伝えによると、別の所にあったのを1555（弘治元年）現在地に移転。本尊・薬師如来像は、大浦鍋田湾より出土した。

この長楽寺で1854（安政元年）12月21日、日露和親条約が調印される。また安政二年1月5日には日米和親条約の批准書が交換される。その時の資料が宝物館にあります。

長楽寺の梵鐘は、伊豆八景の一つ「長楽寺の漏鐘」といわれ、江戸期には下田港の出船入船また町民に親しまれた。

●四十三番札所 大安寺（だいあんじ）

- * 本尊・釈迦如来
- * 山号・乳峰山
- * 宗派・曹洞宗
- * 草創・不明

* 創立年代は不明で、言い伝えによると、創建当時は因善寺と称し、真言宗であった。1590（天正十八年）僧、寂用英順が二世となり、曹洞宗に改宗。

* 山号の乳峰山は、裏山の形状が乳房に似ている事から付けられた。

* 薩摩十六烈士の墓（市、指定史跡）＝貞享5年（1688）3月、日向国佐土原藩主が将軍家御用材を江戸へ送る途中遠州灘で嵐に遭い、積荷の一部を海に捨てて危うく遭難を逃れた。しかし乗組員16名は3名の武士を含め15歳の少年七歳まで全員が切腹してその責任をとり、大安寺に埋葬された。

●四十一番札所 海善寺（かいぜんじ）

- * 本尊・阿弥陀如来
- * 山号・富巖山
- * 宗派・浄土宗
- * 草創・不明

* 創立年代は不明で、言い伝えによると、僧、照善が縄地村に真言宗の草庵を創立後に下田市本郷に移転、僧、量誉が天気院と称し、浄土宗に改修現在地に移転し海善寺とした。1590（天正18年）徳川家康により下田に封じられた、家臣戸田忠次の屋敷跡です。

* 山門は江戸時代の作

●四十四番札所 広台寺（こうだいじ）

- * 本尊・聖観世音菩薩
- * 山号・湯谷山
- * 宗派・曹洞宗
- * 草創・不明

* 創立年代は不明で、言い伝えによると、創建当時は桂昌庵と称し、蓮台寺温泉の郊外の高台にあった1612（慶長十七年）僧、宗逸により、現在地に移され、曹洞宗、湯谷山・広台寺となる。

* 伊豆横道札所の十一面観音像も合祀されてる。

●四十五番札所 向陽院（こうよういん）

- * 本尊・地蔵菩薩
- * 山号・三壺山
- * 宗派・臨済宗・（建長寺・末寺）
- * 草創・1403（応永九年）

* 比叡山の学僧・阿闍梨が虚空蔵菩薩、地蔵菩薩の二菩薩を本尊として、地蔵密院と称し、創建した。

その後 1492（明応元年）鎌倉・建長寺より、僧、宣梅が臨済宗・向陽院として再興する。

●四十六番札所 米山寺（べいさんじ）

- * 本尊・薬師如来
- * 山号・砥石山
- * 宗派・無属（宗派に属さない）
- * 草創・733（天平五年）

* 本尊の薬師如来は行基の作で、越後、伊予、伊豆の三ヶ所にあり、三大薬師といわれる。本尊の開帳は六十年に1度、半開帳は三十年に1度です。

* 米山寺と名付けられているが、宗派に属した寺ではありません。

地区の方々が管理している、石段を登った所に本堂があり、五百
ほど登ると奥の院があります。御朱印は近くの龍巢院でいた
く。無住職

●四十七番札所 龍門院（りゅうもんいん）

* 本尊・青面金剛明王

* 山号・保月山

* 宗派・曹洞宗

* 草創・1099(康和元年)

* 創立当初は真言宗の小さな草庵で、山上で見つけた仏像を安置
し、相玉の龍門寺と名付けていた。後年この仏像が、「青面金
剛明王」と判り大節に安置されていた、その後衰退していたが
1593（文禄二年）太梅寺四世・法山宗禪が、再興し曹洞宗に改
宗され、現在に及ぶ古刹です。無住職

距離 約2 Km+約1 Km+約0.5 Km+4 Km+1.5 Km+約3 Km
+約2.5 Km=約14.5 Km

タイム 下土狩5:50—天城・道の駅—玉泉寺発7:50—長楽寺8:25
～9:00—大安寺9:15～9:30—海善寺9:35～9:50
—広台寺10:45～11:30—向陽院12:30～13:05（昼
食・休憩）—米山寺13:05～13:50—龍巢院—龍門院14:
25～14:45—金山温泉—15:00～16:30—三島18:
30

温泉 河内温泉（蓮台寺駅近く）＝金谷旅館千人風呂（1000—・平日7
00—）

その他 法話＝長楽寺（1000円・休日）

平日・休日とも薫風香る気持ち良い天気。休日巡礼は、石楠花・八重桜・ツツ
ジの鮮やかな花々が新緑に溶け込んで清々しい朝。少し肌寒かった。

7:07、左側に河津の桜並木を通り過ぎ海が広がって見えて来た。前回歩
いた白浜・外浦海岸が美しく輝いている。こんな早い時間なのにもうサーファ
ーが大勢海に漂っていた。オットセイみたい。昨夜、泊まったのかしら??

7:30、バスは玉泉寺駐車場に到着。

7:50、今回参加者バス班22名、下田班が4名合流。下田班が1名多い
のはNさんの姉で東京在住のTさんが急遽参加したからだ。軽く準備体操をし
て、講師がTさんを紹介した後、下田港に沿って出発。

道の駅には1万数千本の色鮮やかな風車が勢いよくクルクル回り、私たちを
出迎えてくれた。「けっぱれ」は秋田の方言で「頑張る」だが、励まされてい



下田・道の駅



下田港

るかのように感じたのは私だけ??ここには足湯もあった。

四十二番札所・長楽寺着。平日時は山門の桜が盛りだった。休日班が本堂に上がると何やら畳の上いっぱい袋が広がってある。今までなかった光景。ご住職が曰く、四国八十八札所寺の境内の砂が詰められた袋とのこと。これを踏んで周ると四国八十八と同じご利益がありますとのお言葉。

罰があたりそうと思いつつ恐る恐る足を乗せてみる。何やら心地よく八十八ヶ寺を数えながら巡ってみました。

この行事は毎年、弘法大師の入定日（命日・旧暦3月21日）前後にご披露されるとのこと。休日班は今年これにめぐり合い幸運でした。



天野 玄住職

天野 玄（あまのりゅうげん）住職のお話を聞く機会を得ることが出来ました。世の中は全ての物は、陰（地上世界・左手）、陽（仏世界・右手）から成り立っている。合掌は陰陽を合わせ願いを込めるものです。

「右手に仏、左に私。合わせて中にゆかしき南無の一声」「苦難を乗り越え歩くことによって無になれる」

また、般若心経を暗記してキョロキョロしながら唱えてはいけません。意味をよく考えて下さい。「入我我入」仏様に帰依することです。

あ～、成るほど。納得。ご住職にたくさんのお言葉をいただきました事、有難うございました。お経を唱え合掌。

注・入我我入＝仏が我に入り、我が仏に入る境地に達して衆生を救い円寂に至る

隣の了仙寺を通過して大安寺に向かう。この境界は小川が流れていい雰囲気だ。平日時丁度この日が「花まつり」で各寺には甘茶の祭壇が置かれていた。回るお寺お寺で甘茶をふるまわれ、口の中がちょっと重くなってしまった。



花まつり祭壇

9：10、大安寺では65番のご朱印もいただく。バラして朱印帳を持ってきた方は後日いただく事とする。ここには、薩摩十六烈士の墓があった。

薩摩十六烈士＝貞享5年（1688）3月、日向国佐土原藩主が将軍家御用材を江戸へ送る途中遠州灘で嵐に遭い、積荷の一部を海に捨てて危うく遭難を逃れた。しかし乗組員16名は3名の武士を含め15歳の少年七歳まで全員が切腹してその責任をとり、大安寺に埋葬された。

9：35、すぐ近くの海善寺に着く。入り口には立派な山門（梵鐘門？）がある。これは江戸時代の作といわれる。ここから下田駅前を通り稲生沢川を北上する。立野で左折して蓮台寺に入り広台寺に着く。蓮台寺は温泉の町で寺の入り口には「足湯」ならぬ「手湯」が出ている。

庭には今、石楠花が満開。本堂の欄間に中国絵があった。平日のHさんの説



海善寺

広台寺



姑（しゅうと）に乳を飲ませ世話をする図

明では、中国「二十四孝」の図で様々な親孝行の絵が描かれていた。中でも嫁が姑に乳を飲ませる図は印象的だった。

10. 姑（しゅうとめ）に乳を飲ませ世話をする

唐の時代の話です。博陵（今の河北省）に崔山南という節度使がおり、その妻は唐夫人というお方でした。彼女の姑の長孫夫人はもう年老いて食べ物を歯でかむことができませんでした。これを心配した唐夫人は毎朝早く起き出し、姑のところへ行って、顔や手を洗ってやり、それから自分の乳房をとり出して長孫太夫人に飲ませてあげるのです。そして髪をとかしたりして、よく身のまわりの世話をしました。

こうして姑によく仕えること数年。何とか元気を取り戻していた長孫太夫人でしたが、あるとき病気がかかり、今度はお迎えがくるだろうと覚悟し、一族の人々を呼んで話しました。

「私が唐夫人からうけた長年の恩を返さないで、死んでしまうことはまことに心残りなことです。私の子孫が、唐夫人のように孝養を尽くし義理を守ることを見習ってくれるならば、かならずわが一族は行く末も富み栄えるにちがいありません」

このように姑に孝行な人は昔から少ないというので、誰もが美談としてほめたたえたということです。後に夫の崔山南は出世して高官になり、長孫太夫人のいったことが実現したのでした。

<http://www1.vecceed.ne.jp/~watagi/page023.html> から

11:25、このところ帰りの温泉で利用している金谷旅館前を通り、向陽院着。本堂の屋根を工事中だったので外でお勤め。昼食もここで済ませる。平日は桜が満開だった。庭のお堂に蜜蜂の巣があり気になった。昼食後、米山寺に向かう。



向陽院住職



金谷旅館

13:10、米山寺着。下の本堂でお勤めの後、奥の院に上る。今日の行程で一番きつい上りだ。フウフウ言いながら、あと250m・200m・150m・100m・50m、やっと着いた～！！

しばし休憩後下山しすぐ北の龍巢院にご朱印を貰いに行く。ここもまたちょっと上りがあって、またハアハア。この寺は巡礼寺でないけれど住職は感じの良い方だった。また、墓地には珍しく大きな十字架の塔が立っていた。なんでもフィリッピン方面で戦死した方々のお墓らしい。

14:00、今日の巡礼最後の龍門院着。ここは無住職で階段はデコボコで危険だ。本堂の扉をガラガラと開けるとご本尊が見えた。外でお勤めを済ませれば今日の巡礼は終了。下田の方とはここでさようなら。また来月会いましょう。

14:50、バスの人となり一路金谷旅館に向かう。

15:00、金谷旅館着。1000円払いお風呂へ。お風呂の後、後藤講師

より巡礼完全歩行の証の「巡拝畢」(じゅんぱいひつ)をいただく。感無量だった。まさか自分が完全歩行出来るとは思ってもなかったので、自分を少しだけ褒めてあげたかった。

皆さんと一緒にお寺を巡礼させて頂く事が出来まして本当に幸せでした。皆さんも山を楽しみ、花を楽しみ、会話を楽しみ、自分のペースで巡礼を続けて下さい。本当に皆さんに助けられここまでこれた事に感謝致します。ありがとうございました。御座いました。合掌。16:30、金谷旅館発。一路家路へ。



龍門院

完歩の石田さん



平日班 (米山寺奥の院)

休日班 (龍巢院・番外)

